

がんばる受験生を応援する

公立入試NEWS

2015

大阪府の
中3生必見!

大阪府公立高校の 入試が変わります!



Go ahead!

詳しくは
中面へ



 **五ツ木書房**

新しい大阪府公立高校入試制度とは…?

2016(平成28)年度から、大阪府の公立高校の入試制度が大きく変わります。前期・後期日程が廃止され、原則1回の入試になるのはじめ、学力検査は5教科での実施が基本となります。また、「自己申告書」の提出が新たに求められるほか、調査書についても、評価方法や記載内容が変わります。ここでは、現時点(2015年2月現在)で大阪府教育委員会(以下「府教委」という)が公表している内容をまとめました。

特別選抜と一般選抜

3月入試に原則一本化されます

前期(2月)と後期(3月)に分けて行われてきた大阪府の公立高校入試は、今後、3月(2016年度入試は3月10日)に行われる「一般選抜」に原則一本化されます。

ただし、実技検査を行う学科(体育に関する学科・芸能文化科・音楽科・総合造形科など)と、面接を行う学科(エンパワメントスクールなど)は「特別選抜」として、2月中旬～下旬に学力検査(2016年度入試は2月22日・23日)と実技検査・面接が行われます。

学力検査

5教科入試が基本になります

「特別選抜」「一般選抜」とも、学力検査は原則5教科(国語・社会・数学・理科・英語(リスニング含む))での実施になります。2015年度まで3教科(国語・数学・英語)での実施だった文理学科などの専門学科も5教科となります。

また、国語・数学・英語は、難易度別に、「特別選抜」では2種類、「一般選抜」では3種類の問題が用意されます。各高校が使用する問題の種類は、事前に公表されることになっています。(2016年度入試は、2015年7月頃に大阪府ホームページで公表予定。)

※複数の学科を設置している高校は、全学科同一の問題を使用。

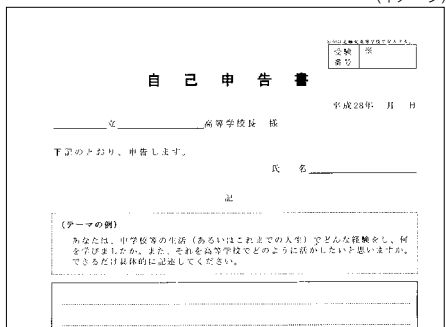
自己申告書

受験生は、あらかじめ府教委が提示したテーマについて、これまでの経験や、今、考えていること、将来の希望などを文章にし、出願時に提出します。

自己申告書は「特別選抜」(面接を行う場合)や、ボーダーゾーン(合否ラインの上下10%)内の判定資料に使われます。

- ◆自己申告書のテーマ(府教委が示した例)
「中学校3年間で何を学んだか。また、それを高等学校でどう活かしたいか。」
「3年後の自分を想像してみる。」

(イメージ)



複数学科志望

同じ高校の中で、複数学科を志望できます

文理学科と普通科など、複数の学科を設置している高校では、第1志望「文理学科」、第2志望「普通科」のように、複数志望が認められます。

※複数志望できる学科については、府教委より別途公表予定。

調査書の評価(内申)

相対評価から絶対評価に

調査書の評価を、他の生徒との比較をもとにする10段階の「相対評価」から、学習指導要領に示す目標がどの程度実現したかをみる5段階の「絶対評価」に変わります。また、評価対象学年もこれまでの第3学年のみから、全学年となります。

ただし、経過措置として、2016年度入試は第3学年のみ、2017年度は第2、第3学年(評定の比率は第2学年:第3学年=1:3)、2018年度以降は第1学年から第3学年(評定の比率は第1学年:第2学年:第3学年=1:1:3)が評価対象となります。

なお、府教委は、2015年度の中学3年生について、評価の公平性を保つ仕組みを別途公表するとしています。

全9教科の評定は同じ重みで点数化

総合点を算出する際は、9教科(国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・保健体育・技術家庭)の評定が同等に扱われます。

学力検査と調査書の比率

学力検査の成績と調査書の評定の比率を、「3:7」「4:6」「5:5」「6:4」「7:3」の5つのパターンから、各高校が選択することになっています。

「活動/行動の記録」欄*の新設

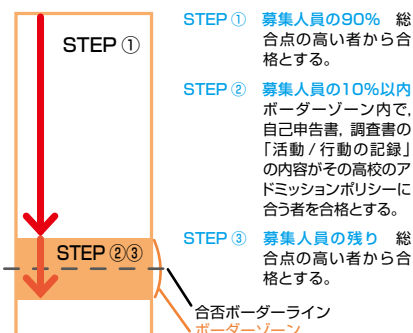
これまでの「総合所見」欄を「活動/行動の記録」欄とし、教科、総合的な学習の時間、特別活動、部活動などにおける様子を中学校の先生が具体的に記述します。

*「特別選抜」(面接を行う場合)や、ボーダーゾーン内の判定資料に使われます。

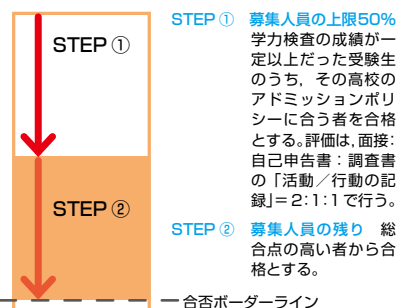
合格者の決定方法

「一般選抜」と「特別選抜」(実技検査を行う場合)では、「学力検査の成績」と「調査書の評価」を合算したものを総合点として、上位者から順に合格者が決定されます。なお、合否のボーダーラインの上下それぞれ10%(合わせて20%)にボーダーゾーンを設定し、「自己申告書」および「活動/行動の記録」の記載内容が、高校側のアドミッションポリシー(求める生徒像)に極めて合致する者を、総合点の順位に関わらず、優先的に合格させるとしています。

- 一般選抜(通信制の課程を除く)、特別選抜(実技検査を行う場合)



- 特別選抜(面接を行う場合)



これまでの入試と何が変わるの？

中3生が
受験するのは
コチラ

新旧制度を
比べてみよう！

これまでの
入試制度

2016(平成28)年度からの
新入試制度

選抜機会

前期 普通科の一部定員と
専門・総合学科など
後期 普通科の残りの定員
同一校（および普通科）を
複数回受験可能

特別選抜 2月中旬～下旬実施
実技や面接を行う一部の学科
(体育・音楽・総合造形・エンパワメントスクールなど)
一般選抜 3月初旬～中旬実施
上記以外のすべての学科
同一校の受験は**原則1回**

出願

1回の選抜での出願は
1校・1学科のみ

同一校内の**複数学科**へ出願が可能

日程

2015(平成27)年度入試
前期 学力検査：2月23日(月)
合格者発表：3月2日(月)
後期 学力検査：3月16日(月)
合格者発表：3月23日(月)
※一部の学科を除く

2016(平成28)年度入試
特別選抜 出願：2月15日(月)・16日(火)
学力検査：2月22日(月)・23日(火)
合格者発表：3月1日(火)
一般選抜 出願：3月3日(木)・4日(金)・7日(月)
学力検査：3月10日(木)
合格者発表：3月18日(金)
※一部の学科・課程を除く

選抜資料

前期 学力検査 + 調査書
(+ 実技検査または面接)
後期 学力検査 + 調査書

特別選抜 学力検査 + 調査書 + 実技検査または面接
+ **自己申告書**
一般選抜 学力検査 + 調査書 + **自己申告書**
新たに「**自己申告書**」を出願時に提出

学力検査

教科数：**前期** 3教科
後期 5教科
問題：**前期** 3種類
学科により指定
後期 全校共通
(数学・英語に
AB選択あり)

教科数：**特別選抜** **一般選抜** **原則5教科**
問題：同一校内・同一選抜では**全学科共通**
国語・数学・英語については
特別選抜 は2種類、**一般選抜** は3種類
の難易度の中から各校が事前に問題を指定

小論文

前期入学者選抜にて実施
※一部の学科を除く

特別選抜 **一般選抜** 実施しない

調査書

・相対評価(10段階)
・評価対象：3年生のみ
・9教科の評定：
前期 国語・数学・英語×1
残りの教科×2
後期 5教科×3
残りの教科×5

・**絶対評価**(5段階)
・評価対象：1～3年生
(ただし、2016年度受験生は
経過措置として3年生のみ対象)
・9教科の評定：**全教科同等**
・「**活動/行動の記録**」欄の新設